

道徳通信

2年生 No. 35

クラス道徳

「ジコチュウ」

臨時休校前で
各クラス
15分ほどでした。

あらすじ

ある日の放課後、班で資料を作っているとき、途中で帰ろうとする佐々木に、「僕」は「ジコチュウ！」と言
い放ちます。でも佐々木は、自分の分担以上の作業は終わらせていたのでした。数日後、「僕」は小さな子を二
人連れて歩く佐々木を見かけます。その後、急な雨で母に傘を届けに行くと、佐々木も雨宿りしていました。母
は佐々木に傘を差し出します。そこで、母がよく佐々木をスーパーで見かけていることを知りました。翌日、傘
のお礼といっしょに渡された佐々木からの手紙には、母の入院で時間のゆとりがないこと、そして同情されたく

ないからやるべきことはちゃんとやると書かれて
いました。「僕」の頭の中には、同じ言葉が渦巻い
ていました。

「ジコチュウ！」

僕は、
どんなことに
対して、
「ジコチュウ」
と思った
のだろう？

なんにも

わかっていないくせに！

あいつ、あんな笑顔をするんだ。

手紙を読んだ後、「僕」の心の
中には、どんな「言葉」が
渦巻いているだろう？

佐々木は、どうして自分のことを
言えなかったのだろう？

佐々木は、どんなことを考えながら、
手紙を書いたのだろう？

傘をありがとうございました。
おかげで早く帰ることができました。
母が入院中で、弟と妹の面倒をみなければなりません。
私には、みんなと同じ時間のゆとりはありません。
ジコチュウと言われるのは嫌ですけど、
同情されるのは、もっと嫌です。
だから、やらなければならないことは
ちゃんとやります。
佐々木

<みんなの感想>

- 何でもないように見える人でも、実は何か抱えているかもしれないから、見かけだけで人を判断してはいけないと思った。でも先に言っておいたら楽なこともあるし、でも、プライドっていうのもあるし、大変だなと思った。(Tさん)
- 今日の授業は短い時間だったけど、学んだことが多かった。自分がやらなければいけないことを、何を言われても、やり切るということはすごいと思ったし、とても大切なことだと思った。今日の授業をやって、しっかりやらなければいけないことをしっかりやりきろうと思った。(Sさん)
- 佐々木の人に同情されたくないっていうところはよく分かった。小さい子どもを一人にするのはとても危険なことだから、そこはもうみんなに話してから出ていった方が良かったんだと思う。(Sくん)

相手を説得する場合、

激しい言葉をつかってはならぬ。

結局は恨まれるだけで物事が成就できない。

(坂本竜馬)

- 本当のジコチュウとは、ということだろう。(Kくん)
- 僕は、人を自己中だと思っていたことがあったけど、まず自分がどうなのか考えようと思いました。また、そういうことがあったら人のことを考えて話すようにしようと思った。(Iくん)
- 佐々木の言い出しにくい気持ちもわかるし、僕の気持ちもわかるような気がした。人の心は難しいなと思った。(Kさん)
- 何も知らないで自分の気持ちを相手にいうのはアカンけど、しょうがないのかなとも思ってしまった。佐々木も相談くらい誰かにすれば良かったのに、一人で抱え込まなくても…とも思った。(Mさん)
- 自分も、「ジコチュウ」かなと思っている人がいたけど、その人も何か理由があるのかなと思った。(Mさん)
- 私は、(佐々木が) 自己中だと思った方が強いけど、少しだけそうじゃないなと思うところもあって、他の人の意見も聞いて、とても自分の考えが揺れておもしろかった。(Mさん)
- 自己中な行動の中にも、必ず理由はあるって、本当に自分のことしか考えていない人なんていないと思いました。私も表だけを見て判断するのではなくて、しっかり人のことをみて行動したいなと思いました。(Mさん)
- 相手のことを考えて物事を言わなければいけないなと思いました。「ジコチュウと言われるのは嫌だけど、同情されるのはもっと嫌」は佐々木さんの深い思いがこもっているなと思いました。ちょっとした言葉でも相手からすると、とてもイヤなことかもしれないので、言葉を選んで言うことは大切にしなければいけないと思いました。(Hさん)
- これから先で、このような場面には必ず一度は遭遇するので、そのときは理由もなしに相手を責めたてるのではなく、ちゃんと相手の気持ちをわかってあげることが大切だと思いました。(Wさん)
- いろんな考えの人がたくさんいるし、クラスや学年以外にも社会に出たときなど、行動だけで判断することもでてくるかもしれないし、事情などがあるかもしれないから、相手の考えも理解することが大切だなと思いました。(Nさん)